

石巻著「証券市場と労働市場の機能不全」大機小機、日本経済新聞 2010年10月23日朝刊を読む

### 証券市場と労働市場の機能不全

1. デフレは経済成長を阻害し、国家の発展の道のりを後戻りさせる。カネの価値が上がるばかりでインフレの心配がなければ、個人の消費行動もおかしくなる。金融資産を持つ個人は物価下落を喜んで傍観する一方で、低賃金の個人は生活必需品だけの消費にとどめる。富裕層との消費満足度の格差が広がり、社会の平穏が揺らぐ。
2. こうした状況で、政府は環境、医療・介護、農業、観光を中心に経済成長を目指すとしているが、うまく雇用や消費に結び付くのか。
3. 企業経営者の悩みは深い。国内市場で低価格競争を強いられるなかで、コストを削減して頑張ってきたが、もはや限界に来ている。円高・デフレリスクから逃れるには、独自のものづくりや先端技術の海外移転もやむを得ないと考える企業は多い。
4. しかし、海外展開を進める大企業によると、現地の労働慣行や人事管理の難しさに加え、税務当局など行政面の不透明さが難題だという。カントリーリスクも顕著だ。
5. さらに国内の証券市場の機能不全が深刻だ。日本市場では、企業価値の本質である新商品や技術向上を評価してもらえないのが現状だ。
6. 証券市場が活気を失った一因は、ベンチャー企業が新規株式公開(IPO)を目指す振興市場で、証券業者が素人の個人投資家に過度のリスクを転嫁して、信頼をなくしたことにある。
7. 証券市場の停滞と参加者の未熟さの結果、資源の適正配分機能は十分に発揮されていない。市場関係者は、現状を招いた責任を自覚して、アジアを引っ張る日本市場の再構築を目指すべきだろう。
8. 労働市場も機能不全に陥っている。企業にとっては企業存続に有用な人材、被雇用者にとっては安定雇用とやりがいのある仕事が存在することが機能回復への道である。しかし現実には、年功序列や終身雇用制度が、新卒採用の抑制や社内失業の大量発生といった雇用のミスマッチを引き起こしている。

9．企業と被雇用者が安定雇用を共通の目標としたうえで、任期付き雇用の導入などにより雇用慣行の是正を進める必要がある。

10．失業は景気要因ばかりで発生するわけではない。労働市場の機能低下により、企業の選択肢が乏しくなっていることも失業発生を招いているという事実を、政府は認識すべきである。

[コメント]

政府、企業、一般市民として、このデフレとどのように対処するかが最大の課題であると思う。石巻氏の指摘は1つ1つが理にかなっているように思える。これを1つ1つのアクターがどう自分の責任で展開できるかが次の問題となる。「自己責任」「自助努力」ということばが今ほど真実味をもって迫ってくる時代はない。

- 2010年10月24日 林 明夫記 -